

ニ從テ益々其効驗價值ノ大ナルヲ覺ユ故ニ之ヲ以テ現時世ニ用ユル所ノ高價ナル耐水セメ
 ントニ代ユレハ經濟上少ナカラサル利益トナラン此モルタルハ何レノ國ニテモ利用シ得ベ
 キモノニシテ豈夫レ獨リ伊太利ニ限ルモノナランヤト American Architect & Building News 會達
 ○Proposed Italian Canal (Industries. Vol. XII. No. 297. March. 4th. 1892.) 近頃伊太利ニ於テ羅
 馬府及ヒテウボリ間ニ大運河ヲ掘テ以テ工業上及ヒ農業上ノ利ヲ圖ラントスルノ舉アリテ
 ウボリハ羅馬府ヲ距ル北東十七哩半ニシテ丘陵上ニ位シヴエスタ及ビシピラ等有名ナル古
 代ノ寺院尙存ズ此處山河ノ風景ニ富ミ又海面上六百九十八呎ノ高サアルアニエン河ヨリ流
 出スル瀑布アリテ其ノ高サ三百二十八呎アリト云フ運河ハ其ノ源ニ於テ百十五呎ノ築堤ニ
 初マリ數多ノ溪流ヲ經又多少其ノ流力ヲ用ヒラレタル后尙海面上三百二十八尺ノ高サヲ有
 シテ以テ運河中ニ流入スト云フ

運河ハ羅馬府ニ近キテバーニアル出口ニ至ル迄其ノ長大約二十五哩ニシテ其ノ間大概高野
 ヲ貫流ス此等ノ高野ハ當時冬夏ノ酷熱嚴寒ノ爲全ク不毛ニ屬スト雖モ若シ該工事成功シテ
 灌溉宜シキヲ得バ一大牧場ヲ得ベキ望ミアリト云フ

運河ノ沿岸ニハ又數多ノ瀑布アリテ其ノ水力ハ此等ノ牧場ニ於テ原動力トシテ用ヒ得可ク
 又ハ送電機ニ由テ此ヲ近傍ノ地ニ移スヲ得ベシ

運河ハ其ノ末流羅馬府ニ達シテ尙海面上二百七十五呎ノ高サニアリテ此ヲテバー河ニ放出
 シテ二百四十五呎ノ水頭ヲ利用スルヲ得

斯クノ如クシテ每秒壹立方ヤードノ水量ハ此ノ高ヲ流下シテ七百六十馬力ヲ生ジ而シテ運

河ノ水ハ羅馬府ノ近傍ニ於テ每秒其ノ利用スベキ水量殆ンド十立方ヤード半アルガ故ニ其ノ生スル原動力ガ實ニ八千馬力ヲ得ル難カラズト云フニアリ此等ノ原動力ハ羅馬府近傍ノ製造所及ビ鐵道會社ニ於テ用井ラレ又府内小製造業者ノ爲ニ電導力トシテ此ヲ移スヲ得ト云フ又夜間ニハ此ヲ電燈ニ使用スルノ利益アリ

運河ノ水量中每秒四立方ヤード以下ハ羅馬市公共ノ爲ニ用井ラル、トアリテ多クハ全市ノ高地ニ布設セル下水管ヲ洗滌スルニ用井ラル

此ノ如キ羅馬近傍各地ノ富源ニ大關係ヲ有シ特ニ全市人民ノ健康及ビ工業上大利アル此ノ工事ノ費用ハ無慮四十八万磅ノ多額ニ登リ其ノ主任技師ハ羅馬市水利工事長ウベスコバリ氏ナリトゾ

(杉野藤吉)

○魯西亞ノ鐵道 *Engineering News, feb 13, 1892* 同國鐵道ノ全延長ハ二万六千九百六十四キロメートルニテ其内二万二千七百十キロメートルハ單線ナリ此線ノ外ニカスピヤン地方ニ千〇六十四キロメートル又フヒンランド地方千五百四十七キロメートルアリ政府所轄ノ線ハ單線四千六百八十四キロメートル及ヒ復線百十四哩ノミ何レモ其軌間ハ種々混雜セリ大凡左ノ如シ

軌 間	延 長 (キロメートル)	軌 間	延 長 (キロメートル)
五呎ノモノ	二万五千九百三十三	三呎六吋ノモノ	四百三十六
三呎ノモノ	三十二	四呎八吋半ノモノ	五百二十